法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-28

【特集】図書から広がる市民活動資料の世界：東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料を考える ： 特集にあたって

山本, 唯人 / YAMAMOTO, Tadahito

(出版者 / Publisher)
法政大学大原社会問題研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
Journal of Ohara Institute for Social Research / 大原社会問題研究所雑誌
(巻 / Volume)
777
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
4
(発行年 / Year)
2023-07

【特集】図書から広がる市民活動資料の世界
――東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料を考える

特集にあたって

山本　唯人

特集の目的

法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ（以下，環境アーカイブズ）は，1970 年代以降の多摩地域における市民活動資料を幅広く収集した，「東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料」（以下，市民活動サービスコーナー資料）を所蔵している。市民活動サービスコーナーは，1972 年，東京都立川社会教育会館（1987 年より東京都立多摩社会教育会館）に設立され，2002 年に廃止された。同コーナーが収集した貴重な資料群は，市民グループ「市民活動資料・情報センターをつくる会」によってその保存と活用が模索され，2011 年 12 月，その中核的なコレクション約 550 箱が環境アーカイブズに移送された。

環境アーカイブズでは，この資料群の整理を進め，2019 年 4 月までに，ミニコミと図書の一部の目録を順次公開し，2021 年 9 月，図書の残り全てと雑誌の主要部分の目録を公開した。これにより，市民活動サービスコーナー資料の基本的な部分の公開が達成された。

2022 年 2 月 22 日，環境アーカイブズでは，環境・市民活動アーカイブズ資料整理研究会「図書から広がる市民活動資料の世界――東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料「図書・雑誌」目録の追加公開に当たって」を開催した。本特集は，この研究会の報告者 3 人により，報告内容またはその背後の問題意識を発展させる形で執筆された論文で構成される。

『大原社会問題研究所雑誌』第 666 号（2014 年 4 月）では，「市民活動・市民運動と市民活動資料，市民活動資料センター」特集を組み，市民活動サービスコーナー資料の成り立ちやその保存・公開を図る市民運動，資料群の意義などについて，多様な立場・観点からの論文を掲載した。この特集は，「市民活動サービスコーナー資料」の概要とその意義を知るための，最も基本的な文献の一つとなっている。

ただし，この段階では，環境アーカイブズによる資料群の整理は進行中であり，コレクション全体がどのような資料によって成り立っているかを，具体的に知ることができない状況のなかでの特集だった。

本特集は，第 666 号の問題意識を受けとめながら，コレクションの主要部分を目録・資料群概要と検索によって把握できるようになった研究・活用の新たな地平を踏まえて，さらに深めるものである。具体的には，2021 年 9 月，全貌が公開された市民活動サービスコーナー資料のなかの「図書」のコレクションに注目し，この資料群の特徴や意義について考察することを目的とする。

2つの視点

この目的のために，本特集では，以下2つの視点を設定する。

第一に，市民活動資料に含まれる「資料」の多様性に目を向けることである。

市民活動資料とは，高度成長期以降，全国で発生した住民運動や市民運動，近年のNPO，NGO，ボランティアなど，市民の自発的な活動から生み出された資料を幅広く指して使われる言葉である。

市民活動サービスコーナーとほぼ同時期に，市民活動資料の収集・公開を始めた民間の施設として，「住民図書館」がある。住民図書館は1976年に設立され，住民運動や市民運動，あるいは個人の発行する「ミニコミ」を継続的に収集した施設として知られる。そのコレクションは，2001年，埼玉大学共生社会研究センターに寄贈され，さらに2010年，立教大学共生社会研究センターに移管され，公開されてきた。

このように，市民活動資料の重要な柱と言える「ミニコミ」について，先行して公開・活用できる状況が整えられたことから，一般に市民活動資料と言えば，手作りの逐次刊行物である「ミニコミ」が，団体の息遣いを伝える資料として注目されることが多かった。しかし，広義の市民活動に関する資料は，「ミニコミ」に限られるものではない。

社会課題の解決には，一般の図書が不可欠である。多くの市民活動が行政と接点を持つ以上，実りある活動を展開するには行政資料の収集も必要となる。そのなかには冊子体の資料も含まれる。また，市民活動はまとめの冊子や報告書など，自ら様々な形態の図書を生み出す存在でもある。

こうした，市民活動資料のなかの「図書」に光を当てることで，市民活動資料の多様性，延いては市民による活動の広がりに目を向けたい。

第二に，「多様な資料」の背後にある重層的な文脈のもとで，個別の活動，延いてはその集積である「多摩の市民活動」を位置づけなおすという視点である。

資料整理研究会のレビューのなかで，環境人類学者のフン・ワン・イン・キンバリー（Fung Wan Yin Kimberly）氏は，市民活動には「前景」と「後景」があると指摘する（Kimberly 2022）。社会問題をいち早く察知し，広く社会に問題提起する，市民活動の「前景」の動きを追いかけるなら，柔軟で，状況に機敏に対応する「ミニコミ」や「雑誌」が適しているかもしれない。

しかし，市民活動は，そうした「速く動く層」だけによって成り立っているわけではない。「前景」を見る目線からは，遠く「後景」に退いて見えるかもしれないが，そのとき，活動をはじめる者にとって，学習のテキストとなり，人びとを結集する土台となる情報は，もっと長い時間をかけて編集・集積された「図書」によって与えられることが多い。表面に見える速い動きは，実はほとんど止まっているようにしか見えない，「ゆっくりと鈍く動く層」によって支えられている。

そして，ある時代に「前景」を占めていた活動も，後続者にとっては「後景」となり，「前景」と「後景」の関係は動態的に塗り替わっていくものでもある。

ミニコミ，雑誌，図書という速度の違う媒体を，互いに共鳴し合う「一群の資料」として参照することで，個別の活動，延いてはその集積である「多摩の市民活動」の背後にあった重層的な文脈を，より適切に把握することができるだろう。

こうした研究の可能性が，収集した資料の全体を，使用されていた当時の秩序を尊重しながら，

媒体の違いによって分割せず，一体的に保存したアーカイブズの存在によって確保されていることに注意したい。

全体のリストが存在しない市民活動について，上から網をかけるように，アンケート調査的な手法で傾向を把握することは難しい。一方，個別からたぐりよせていくインタビュー調査的な手法で，万単位のタイトルに匹敵する情報を時系列で収集するのはほぼ不可能である。

同時代の重層的な文脈のなかで活動を見るという課題は，2000 年代以降の資料の危機をかいくぐり，資料群全体の保存を決意した市民運動と，その目標を物理的に確保するアーカイブズの協働によって，いまやっと接近できるようになった研究のフロンティアなのである。

特集の構成

本特集は以下の 3 つの論文によって構成される。

第一論文は，元環境アーカイブズ RA として，東京都立多摩社会教育会館旧市民活動コーナー資料の「図書」「雑誌」関係の目録作成を担当した宮﨑翔一氏による「市民活動資料における図書の整理――東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料の場合」である。

宮﨑氏の論文では，コレクションに含まれる「図書」の整理方法に焦点を絞り，コレクションの概要，ジャンルの広がりなどを報告した上で，その活用の可能性を展望する。資料の多様性については，環境アーカイブズが独自に設けた形態別の分類を利用して，一般流通する図書，団体などが自主制作した冊子などの割合を具体的に集計し，紹介する。

第二論文は，東京都立多摩社会教育会館市民活動サービスコーナー元職員の山家利子氏による「東京都立多摩社会教育会館市民活動サービスコーナー事業における資料の収集と活用」である。

山家氏は，1972 年，市民活動サービスコーナー発足と同時に非常勤の社会教育指導員として採用され，2002 年，事業終了に至るまで勤務した元職員で，その活動の経緯を最も熟知する一人である。

山家論文では，資料収集に当たった当事者の立場から，市民活動サービスコーナーの柱であった「情報・資料の収集・提供」事業を中心に，ミニコミだけに対象を絞らず，図書も含めた「情報・資料」の全体に目を配って，論じていただいた。

本論文は，市民活動サービスコーナー資料の収集の文脈を把握する上で，最も基本的な文献となるものである。

山家氏は，『大原社会問題研究所雑誌』第 666 号の特集で，市民活動サービスコーナーの設立とその役割を執筆しており，本論文は，第 666 号と今回の特集号を貫く軸となるものでもある。

第三論文は，環境アーカイブズ RA で，現在，市民活動サービスコーナー資料整理担当の加藤旭人氏による「東京都立多摩社会教育会館市民活動サービスコーナーと多摩地域の市民活動――機関誌『市民活動』から読み解く」である。

加藤論文では，前の二論文を踏まえながら，市民活動サービスコーナーが発行した機関紙『市民活動』を参照し，市民活動サービスコーナーの歴史とその背景である多摩の市民活動を関連づけて考察する。市民活動サービスコーナーは，最も発行間隔の短い『市民活動サービスコーナーだより』とその後継誌，年平均 1 ～ 2 回発行の冊子体の機関誌『市民活動』，およそ 10 年に 1 回の間隔

で活動を振り返る『市民活動』の特集号「コーナー白書」という３通りのペースで，情報を発信・蓄積した。

加藤論文は，この３層の媒体のうち「中層」にあたる『市民活動』に注目し，収集された資料の多様性やその背後にある市民活動の文脈を再構成する。資料群収集の文脈を物理的に確保し，検索機能と結合させる「アーカイブズ」という調査環境の整備によって，具体的にどのような市民活動の分析が可能になるかを示した，興味深い試行になっている。

（やまもと・ただひと　法政大学大原社会問題研究所准教授）

【参考文献】

Fung Wan Yin Kimberly（2022）「図書から「収集」と「学習」を考える」環境アーカイブズウェブサイト , https://k-archives.ws.hosei.ac.jp/event_detail/20220323/（2023 年 4 月 12 日アクセス）